

ぱれっと

2008
4月
No.104

■ 目次 ■

- P. 2～3 すぽっとらいと 音楽のチカラによる心のバリアフリーを！！
特定非営利活動法人 オハイエ・プロダクツ
- P. 4 サポセン日記 充実しました！
CSRコーナー
- P. 5 サポ本を読もう！ 今月は、拡大版です！
サポセン広場
- P. 6 アラカルト 事業報告
NPOと一緒にできる、企業の社会貢献のコツ
- P. 7 イベント紹介
- P. 8 お知らせ など

サポセンのサービス はっきり・すっきりプロジェクト始動！



「今日の集まりは何階かしら？どの部屋かな？…」サポセンに来館された方は、まず行き先を確認されます。

そこで、館内表示“はっきり・すっきり”プロジェクトの第一弾として、今月から、サポセン1階の表示の見直しを行っています。行事板の位置、CSRコーナーやボランティア情報の表示など、徐々に“はっきり・すっきり”させていきます。

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

音楽のチカラによる心のバリアフリーを！！ 特定非営利活動法人 オハイエ・プロダクツ

「とっておきの音楽祭（※1）」を支援しているのが特定非営利活動法人オハイエ・プロダクツです。この音楽祭の他にも幅広く魅力的な活動をしています。事務所を訪れ、理事の菊地昭典さんにお話をうかがいました。



▲事務所にて菊地昭典さん

●プロ・アマ問わず発表できる仕組み

オハイエ・プロダクツは、イベントの企画・制作、映像制作、講師派遣などを行い、2006年にNPO法人として全国初の音楽出版社（※2）としての認証を受けました。

障がい者は、社会に向けて活動を発表する場が極端に少ないのが現状です。オハイエ・プロダクツは、才能はあってもハンディが原因で発表の場さえままならない人々を、総合的にプロデュースし、その収入で暮らしていけるように社会的自立のサポートをするために、「オハイエレコーズ」という音楽出版事業に取り組んでいます。映像制作事業として、2007年春に公開された「とっておきの音楽祭」の取り組みをまとめたドキュメンタリー映画「オハイエ！」は仙台市を初めとして県内外でも上映されています。

また、プロは目指さなくても趣味の発表の場をつくりたい人のためにも、「とっておきの音楽祭」だけでなく、定期的に発表の場を提供できるような仕組みづくりを模索しています。

●「心のバリアフリー」の

さらなる強化を目指して

2001年から市民ボランティアによって毎年開催されているのが「とっておきの音楽祭」です。この音楽祭は「音楽のチカラ」で「心のバリアフリー」を実現することを目的に開催されており、毎年出演者も観客も増え、着々と実績を上げています。

実行委員としてこの活動に参加してきたメンバーが、積み重ねてきた成果と実績を活かし、音楽祭とは別に「心のバリアフリー」の推進に取り組んでいくためにNPO法人の設立を考えていったのだそうです。

法人化を目指していたオハイエ・プロダクツには2つのねらいがありました。1つ目は、音楽出版社として認証を受け、著作権の管理などをして

いくには法人格が必要だったこと。2つ目は、法人として団体の基盤を整えながら、一般的な信用力の強化に取り組めることでした。NPO法人の音楽出版社は前例がないことではありましたが、2006年に認証を受けることが出来ました。

●団体のネットワークを活かす

音楽出版社の設立や障がい者との取り組みを初めとして、オハイエ・プロダクツの事業は前例のないものが多く、手探りの活動ですが、その手助けになったのが「とっておきの音楽祭」の経験やオハイエ・プロダクツの理事らの働きでした。特に理事には音楽や企画・制作の専門家も多く、これらの人的ネットワークを最大限に活用しながら、一つひとつ作り上げていきました。

これからは、他の団体やセクター間のネットワークづくりを行っていきたいと考えているそうです。例えば、NPO法人みやぎダンスやエイブル・アート・ジャパンなどと協働しながら、障がいの有無などさまざまな違いを越えて、誰でも参加できるアート＝「インクルーシブアート」のワークショップとシンポジウムの開催です。また、仙台駅東口にあるフライングスタジオで月に一度行われる、障がい者のライブ活動をコーディネートするなど、団体の特技を活かしながらネットワークを強化しようとしています。



▲市民活動シアターでのライブの様子

団体紹介

特定非営利活動法人オハイエ・プロダクツ

主に障がいのある人や高齢者が、文化活動をしたり社会的自立ができるように支援している。活動は、個人や団体のプロモーション、イベント自体のプロデュース、映像の制作、講師派遣など多岐に渡り、支援事業を広範囲に展開できる体制を整えている。また、「とっておきの音楽祭」に共催し、支援している。



<団体連絡先>

〒980-0014

仙台市青葉区本町3-5-22 宮城県管工事会館2F

TEL/FAX 022-716-5717

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~totteoki/npo.htm>

Mail:ohaie2005@yahoo.co.jp

●新しいサポセンの使用方法を提案

オハイエ・プロダクツは、定例会、企画運営会議、総会などの際に、目的に合わせてサポセンの研修室やセミナーホールを使用しています。仕事が終わってから会議に参加するメンバーが多く、平日は夜10時まで開館しているサポセンはとても使いやすいのだそうです。

また、去る1月には、仙台市とのタイアップ事業として「とっておきの3日間」というイベントをサポセンの市民活動シアターで開催しました。

初日はチャリティーライブ、2日目はダンスワークショップ、3日目は上映会と、会場の特徴を活かしながら幅広く使ったイベントはとても好評でした。

利用後の感想として、「立地が良く、バーカウンターがある地下の雰囲気を活かして、面白い企画が出来そう、ただもっと備品を整備して欲しい」という、シアターの新しい使用方法などの提案や要望なども出していただきました。

●一歩一歩前へ

このように順調に運営を続けているように見えるオハイエ・プロダクツにも、現在大きな壁が立ちだかっているそうです。菊地さんは、団体のPRやプロとして音楽活動をしたい人のために、

プロモーション活動の基盤づくりをもっと強化していかななくてはならないと感じていて、「成果を喜ぶよりも、まだ出来ていない課題をクリアするために試行錯誤を繰り返している状況だ。」と、今後の団体運営の難しさをきちんと受け止めています。

しかし「オハイエのメンバーの専門性やネットワークを活かして、今までのように乗り越えていきたい」と語り、意気込みも十分です。

無から有を作り出すオハイエ・プロダクツの活動は、他の市民活動団体の方にも非常に参考になると思います。「前例なき道」を進むオハイエ・プロダクツに今後も注目です！

(担当：高橋 陽佑)

※1 とっておきの音楽祭

「障がいのある人も無い人も一緒に演奏を楽しみ、音楽のチカラで心のバリアを打ち壊そう！」を目指し、2001年から始まった野外イベント。昨年は223バンド・団体が参加。観客数約17万人。

各種受賞歴は以下の通り

- ・平成18年度「バリアフリー化推進功労者表彰 内閣府特命担当大臣表彰」受賞
- ・平成19年度 第3回日本イベント大賞「大賞」および「社会貢献部門賞」受賞

※2 音楽出版社

アーティストのプロモーションや、楽曲や歌詞などの著作権の管理を行う会社。

● お知らせ ●

とっておきの音楽祭2008を、6月1日(日)に開催します。現在、実行委員とボランティアを募集中です。専門的な音楽の知識は必要ありません。「みんなで一緒に何かつくっていききたい」という想いがあれば大丈夫です。

【お問合せ】

とっておきの音楽祭実行委員会 SENDAI

TEL 022-265-0980 FAX 022-716-5717

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~totteoki/>



▲とっておきの音楽祭

◆サポセンのサービスいろいろ。
どんなふうに見えるのか紹介します！

サポセン日記

今月のテーマ
～ CSRコーナー が充実～

● CSRってなに？

“CSR”という言葉を目にする機会が多くなりました。ところで、CSRとは一体なんなのでしょう？Corporate Social Responsibilityの頭文字をとって“CSR”、一般的には「企業の社会的責任」と訳され、企業が社会の一員として果たすべき様々な責任を意味しています。

日本における代表的な取り組みには、以下の6つが挙げられます。

- ①コンプライアンス・企業倫理…企業倫理の徹底を図る、法令を遵守する
- ②情報…ステークホルダー（利害関係者）に適切に情報を開示する、情報を適切に管理する
- ③安全と品質…高品質かつ安全な製品・サービスを、安全な方法で生産・提供する
- ④人権・労働…企業の活動によって影響を受ける人々の人権を尊重する、従業員を尊重する
- ⑤環境…環境に配慮した事業活動を展開する、環境情報を提供する
- ⑥社会貢献…健全で持続可能な社会づくりのために社会貢献活動を展開する

<出典：(社)日本経済団体連合会：CSR推進ツール>

● サポセンでの取り組み

サポートセンターでは、⑥社会貢献を支援する一環として、CSR関連の情報収集・発信に力を入れています。

企業の社会貢献とは、単なる慈善活動ではなく、企業の価値を高めるための“投資”と位置づけられるようになり、金銭的な寄付や自社製品の寄贈だけでなく、自社の技術・人材・ノウハウを活かす（＝本業の強みを活かす）活動でより大きな成果を目指す企業が増えていきます。

ところが、企業からは「社会貢献といっても、何をどう取り組んだらよいか分からない」という声がよく聞かれます。そこで注目されているのが、企業とNPOの協働事業です。協働とは、相

互の特性を認め合い、目的の実現に向けて対等な立場で協力し合う関係です。

宮城県内では、発達障害のある子どもの支援を行っているNPOと、家庭教師の派遣・育成を行っている企業が協働して、発達障害のある子どもの学習支援を行う人材の養成を行っている事例があります。（詳しくは、P6関連記事をご覧ください。）

● CSRについて知りたい

ただ、多くの場合、どのような活動をしているNPOがあるか分からない、企業がどのような資源を持っているか分からないというのが現状です。サポートセンターには、宮城県内外あわせて約4000の団体情報がありますが、これに企業側の情報を加えて、企業・NPO双方に情報を提供できるようにし、企業とNPOをつなぐ橋渡しの役割を果たしたいと考え、CSRコーナーを設けました。

現在、197社203冊のCSRレポート、約70冊のCSRに関する図書、新聞記事の切り抜きがあります。

CSRを知る手始めに、サポートセンターを活用してみたいはいかがでしょうか。

（担当：本間 藍）



▲ CSRコーナー

拡大版

サポ本を読もう！

2008年1月に納品された約60冊の新着図書の中から、市民活動に役立つノウハウから生活に役立つエコな知識など、いろんな分野の書籍をサポセンスタッフがご紹介します。

L：ハウツー

『もっとすごい！非常識な会議 ～会議を楽しくする 黄金のコツ26～』

著者：釘山健一
発行：ソフトバンククリエイティブ
定価：1,470円（税込）

先日サポートセンターでの会議にて「会議」についてのスタッフの意見を聞いてみたところ「退屈」「長い」というマイナスな意見と、「重要」「決定機関」という意見が出ました。そう、会議は重要ではありますが、退屈でもある。このジレンマはどこにでも存在します。この本はマンガあり、図説ありで会議を楽しくするポイントがたくさんあります。

ちょっと頭が固くなってしまったら、読んで頭をゆるくして会議について考えてみませんか？

（担当：豊泉 昭子）



C：福祉

『累犯障害者 獄の中の不条理』

著者：山本義司
発行：新潮社
定価：1,470円（税込）

福祉の手が届かず、社会から孤立した末に刑務所に行き着く障害者たち。福祉関係者やマスコミもタブー視する「障害者犯罪」の核心に迫った著者が見たものは、医療、警察、暴力団、性風俗産業などが障害者を食い物にしている実態でした。触法障害者が社会から取り残されている現状を浮き彫りにする、渾身のルポタージュ。福祉に関わる方々に、目をそむけずに見てもらいたい現実がこの本の中にあります。

（担当：太田 貴）



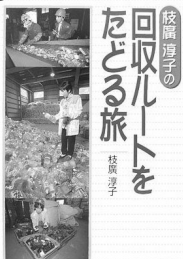
H：環境

『枝廣淳子の 回収ルートをたどる旅』

著者：枝廣淳子
発行：七つ森書館
定価：1,680円（税込）

本書では、ペットボトル・電池・紙など16点の物が回収され、リサイクルされる過程を取材しています。特に驚いたのが、携帯電話のリサイクルシステム。回収した携帯電話は、こなごなに砕かれ金・銀等の資源を取り出すだけでなく、カバーに使われているプラスチックのネジ1本に至るまでリサイクルされているそうです。しかし、携帯電話の回収率はわずか約20%。携帯電話は、販売ショップの店頭で回収しています。皆さんの家にも眠っている携帯電話はありませんか？リサイクルに取り組む一人ひとりの行動が、環境問題の解決につながっていくのです。

（担当：内川 奈津子）



E：まちづくり

『ジミ都市仙台の本 ～社の都へのナビゲーション～』

著者：大内 順
発行：しのめ出版
定価：1,260円

「ジミ都市仙台」やっぱり仙台ってジミ？東北地方の人口百万人を超える中心都市でありながら、あまり特徴がないという印象。しかし、住んでみると意外と住みやすい都市。衣食住遊から考えるその裏づけや仙台の歴史と文化、地域事情の今昔が書かれていて、あらためて「へえ～へえ～」となぜけます。本の中には「ぶれいくたいむ」というコラムがあり、仙台の祭りや即席仙台弁講座のおまけ付きです。「ジミとは言わせない！」そんな思いでまちづくりに関わっている生粋の仙台人にもオススメの一冊です。

（担当：伊藤 浩子）



サポセン広場

サポセンに、駐輪場はありますか？

◆利用者の皆様から寄せられた声にお応えします。

駐輪場はありません。近くに、広瀬通地下自転車等駐輪場がありますので、申し訳ありませんがそちらをご利用ください。また、サポセン前の路上の駐車は歩行者の通行の妨げになりますので、ご遠慮ください。

アラカルト

◆市民活動の旬の話題やサポセンで開催された講座の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

報告 NPOと一緒にできる、企業の社会貢献のコツ

日時 2008年2月26日(火)
会場 市民活動サポートセンター セミナーホール

サポセンとしては、初めて企業の方々をターゲットに開催したセミナーです。2つの企業とNPOの協働事例が報告されました。

＜事例1 ゲスト＞

(株)セレクトイー・家庭教師のアップル
専務取締役 鈴木 由美 さん
NPO法人 自閉症ピアリンクセンター
「ここねっと」
常務理事 黒澤 哲(あきら)さん

＜事例2 ゲスト＞

NPO法人 あかねグループ
理事 清水 福子 さん
財団法人ヤマト福祉財団東北支部
事務局長 平井 忠 さん

＜コメンテーター＞

(株)日立製作所東北支社 企画部企画グループ
部長代理 小野 みゆき さん

本社で社会貢献部設立のメンバーとして、活動方針や新しいプログラム作りを実施。2006年に東北支社へ転勤。東北における地域貢献活動のあり方を模索中。

＜コーディネーター＞

NPO法人 せんだいみやぎNPOセンター
常務理事・事務局長 紅邑 晶子 さん
東北の企業のCSRの取り組みを紹介・推進すべく、「CSR推進相談所」を準備中。

■事例1 企業から → NPOへアクセス

企業 家庭教師を育成するノウハウを持つ企業

個々の生徒に合わせたカリキュラムで学習支援をしているアップルが、多様化するニーズの中で発達障害のある子どもたちに対しても、教師が専門的な知識を身につけ一人ひとりの生徒にあったより良い支援をしたいと考えていました。

NPO 発達障害のある子どもへの支援を行なっているNPO

ここねっとには、これまでの活動から地域生活支援や相談支援を通して得た発達障害に関する専門的なノウハウがありました。しかし、学習ボランティアの人手が足りなく広域的に応えることができないという悩みも抱えていたのです。

NPO+企業 発達障害のある子どもの学習支援を行なう人材の養成

そこで、企業が持つ教師を養成するプログラムと、NPOが持つ専門的な知識とが連携し人材の養成講座を行い、チームをつくって発達障害のある子どもたちへの学習支援を行うことが実現しました。ここで忘れてはならないのは、この事業で一番救われたのは、子どもたちとその家族だったということです。

企業とNPOが互いにそれぞれの良さを認め合い、自分たちの良さを活かし、さらに高いものを作り上げてきたというのがこの事例の強みです。

■事例2 NPOから → 企業へアクセス

NPO 高齢者向けの配食サービスを行なっているNPO

あかねグループは、住み慣れた地域で暮らし続けるための様々な支え合いの活動をする中で、高齢者の食事の貧しさを実感し、お弁当を届ける配食サービスを始めました。その需要は多く、食数も順調に増えていきました。しかし、一方ではお弁当を届けるカーボランティアが不足していたのです。

企業 宅配便の事業を営む企業

ヤマト運輸は、地域に密着した宅配サービスを営んでいます。1995年12月、東北支社の大友優子マネージャーと、あかねグループとが出会う機会がありました。大友さんは、あかねグループの悩みを聞き、自分たちの持つノウハウでなんとか支援できないかと、上司に相談しました。

NPO+企業 カーボランティアとしてお弁当を届ける支援

大友さんの熱心な働きかけが実り、1996年9月から、社員がカーボランティアとしてあかねグループの配食サービスに関わることになりました。

あかねグループのメンバーは、ヤマト運輸から安全に確実にお弁当を配達するためのプロ意識やロードマップの作成方法を学びました。また、ヤマト運輸の社員は、配達の前々で感謝の声をかけられ、あらためて思いやりを持ってお客さんに接する大切さを再確認することができました。それは、社員が地域に対して社会貢献するというを身近に感じる事ができる機会でもあったといえます。

地域で活動しているNPOと、企業が、互いに理解し合い、教えあい学び合ってきたことが、この事業の継続につながりました。

■NPOと一緒にできる、企業の社会貢献のコツとは？

- ★**コツ その①**：本業を活かした（または関連のある）活動を、地域に密着した形で、長く継続することがポイントです。NPOと企業が連携して、相互に認め合い、高めあえる関係を持つことが大切です。
- ★**コツ その②**：今回の2つの事例では、NPOと企業が出会った場所は、セミナーや研修会でした。出会いの場や気軽に相談できる仕組みを作ることも重要です。今回のようなセミナーに参加すると、新しい出会いが生まれるかもしれません。
- ★**コツ その③**：企業人としてだけでなく、家庭人、社会人（地域に暮らす市民）としての視点も重要です。特に、社会人としての視点を持てるかどうかが、重要な鍵です。企業としても、社員一人ひとりの意識や関心を高める工夫が必要です。

イベント 紹介 4月

- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。



開催日	時間	イベントタイトル	貸室	参加費	主催	問い合わせ先
4/5	14:00 ～ 17:00	子どものつまづきには一人一人違った背景があり、原因も様々。一緒に悩みを語り合いませんか？	研修室 2	500円 (事前申込不要)	みやぎ「非行」と向き合う親たちの会	TEL 080-1838-7464 (星野はるか)
4/5 ～ 4/6	9:15 ～ 17:00	話すことを通し人としての成長をめざす個人(5、6日午前)及びグループカウンセリング(6日午後)	5日: 研修室 1 6日: 研修室 1、2	月会費2,500円 グループカウンセリング: 4,200円 個人カウンセリング: 初回12,500円、2回目 ～9,500円(50分) (事前申込必要)	けやき会	TEL&FAX 022-376-8508 (福土久美子)
4/10 ～全 6回	18:30 ～ 21:00	足の冷えやむくみどうしていますか？手軽に出来る手技を身につけて健康になろう。ボランティアにもいいよ。	研修室 3	受講料:20,000円 申請テキスト代 10,000円 教材費:7,000円 (事前申込必要)	JRFA足市場	TEL&FAX 022-223-9023 携帯090-7564-9831 (森)
4/12	13:30 ～ 15:30	女性のための キャリア・カウンセリング(1人50分)	研修室 2	無料 (事前申込必要)	キャリアネットワーク	TEL 090-3640-9746 FAX 022-268-4042 レターケースNo. 11 (長谷川)
4/13	13:30 ～ 16:30	シニア元気笑学校・第5期1日目 1校時・エンディングプラン① 2校時・社会 3校時・交流	セミナーホール	1,000円 (事前申込必要)	シニア元気笑学校	TEL 022-248-3765 FAX 022-248-3775 ※申込はFAXで (校長・渡辺源治)
4/20	13:30 ～ 15:30	心を癒す花の療法 ～バッチフラワーセラピーミニ講座 (体験ボトルを作ってみましょう)	研修室 1	2,000円 (事前申込必要)	バッチネットワーク 東北	TEL&FAX 022-378-0832 (村上)

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

サポセン3階・シニア活動支援センターからの情報をお届けします！

■シニア専門相談<無料・事前予約要>

4月	12日 (土)	始めませんか？ 自然とふれあいながらできる活動 相談員：現在交渉中
----	------------	---

■シニア総合相談<無料・事前予約要>

4月	24日 (木) 午後1時 ～ 午後8時	テーマを定めず、セカンドライフの相談に幅広く応じます。 相談員：内容によって相談員を手配します。
----	---------------------------------	--

< 申込み・問合せ >

仙台市シニア活動支援センター TEL:217-3983

■シニアサロン

～テーマ～
**市民が支える
仙台のまつり・スポーツに参加しませんか？**

○ゲスト：SV2004

代表 泉田 和雄さん

もう一名は、現在交渉中

○日 時：4月21日(月)

○時 間：午後6時半～8時半

○場 所：市民活動サポートセンター
4階 研修室5

○参加費：1000円(ワンドリンク付)/当日受付にて

○定 員：20名(先着順)

お知らせ

サポセン・シアターを3倍面白くする企画 たくさんのご応募、 ありがとうございました！

ばれっと3月号のお知らせでご紹介していた、「サポセン・シアターを3倍面白くする企画、大募集」にたくさんのご応募を頂き、ありがとうございました。なんと、募集数を遥かに上回る**22企画**の応募を頂きました！

現在、企画の選考を行っており、次回5月号で決定企画のご案内を皆様にお届けいたします。

選考された企画は、**2008年9月～2009年2月**までの期間に、**8企画**実施される予定です。どのような企画が選考されるのか、これからの市民活動シアターにぜひ皆様も注目してください。

(担当：小松・内川)



編集後記

いつも最寄の停留所からバスに乗って通勤していますが、暖かい日が続くので、二駅分歩くことに。“春探し”の道草を楽しんでいるうちに、歩くのが楽しくなってきました。

(千葉やす恵)

入学、入社などなど、新しい出発をする方々も多いこの季節。別れあり、新たな出会いあり…サポセンにも新しいスタッフが入ってきました。

さあ、また気持ちを新たに頑張っていきましょう。

(葛西淳子)

仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO法人、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

- 開館時間 平日 / 午前9時～午後10時
日曜・祝日 / 午前9時～午後6時
- 休館日のお知らせ（施設点検等のため）
3/26(水) **4/30(水)**

サポートセンターのサービスあれこれ

- 貸 室
(研修室・セミナーホール・市民活動シアター／有料)
打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。
- ロッカー (有料) レターケース (無料) 事務用ブース (有料)
- 交流サロン
少人数の打合わせに予約なしで使えるリーススペース (無料)
チラシ・ポスターの掲示、展示スペース
インターネット接続スペース (要申込／無料)
- 情報サロン
市民活動団体に関するさまざまな情報があります。
市民活動相談の受付や図書閲覧・貸出も行っています。
市民活動に関する情報収集用 インターネット閲覧 (無料)
- 印刷作業室
印刷機 (紙持ち込み) / 1 製版100円、紙折り機 (無料) /
コピー機 (1 枚10円)

■ 問い合わせ先 ■

発行：仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター)
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042
ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

発行日：2008年3月25日
編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
編集人：本田ふみ 千葉やす恵 葛西淳子

- ★古紙再生紙を使用しています。
- ★大豆油インキを使用しています。



仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。
指定管理期間：2007年4月1日～2010年3月31日

■ 案内図 ■



■ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
[最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前、
広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前
[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ
□当施設に駐車場・駐輪場はございません。
お車や自転車で来館される方は、
周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。
注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。